

教育支援部だより

11月号

進路にむけて実習真っ最中の高等部3年生の生徒 A 君の事例です。高等部に入学したころは、自分の思いや気持ちを出すことがほとんどなく、言われたことはなんでも「はい」と言って行動に移してきていました。2年、3年と学年が上がるにつれて、自分の思いを前に出して、「なんかわからんけど、いらいらする」ということを伝えてくるが多くなってきました。学年での関係性も深まり、自分を出してもいい環境であること、そしてうまくできない自分のはがゆさも本人が感じるようになってきたからだと考えます。このように気持ちの面で変化してきた生徒の「文化祭」で乗り越えた心の葛藤を紹介します。

演目は、「きのかわ新喜劇 ファイナル～修学旅行 in 沖縄～」！ ストーリーのなかの一部分に今年大ブレイクした「U. S. A」のダンスが組み込まれていました。練習の参加に抵抗を示した A 君。

「もういやだ！」と投げやりになってしまい、練習にも不参加で友だちに誤解を与えてしまいました・・・。

【担任との丁寧なやりとりを通して】

～～提案・交渉型アプローチの関わりを通して～～



ダンスを踊りたいけどうまく踊れない

「うまく踊れないから、文化祭は休む」

【担任から提案】

① 休憩時間（朝・昼・帰り）をさいて練習する

② 同じ曲で簡単な振りの方に変える
（友だちのB君と一緒に）
※B君の気持ちはわからないので、断られるかもしれないことも伝える

③ 違う演舞組に変わる

本人が、友だちB君に「一緒に簡単な方に変えよう」と提案するが断られる

「一人で簡単な振りになるのは嫌だ！」 どうしよう・・・

【担任から提案】

① 休憩時間（朝・昼・帰り）をさいて練習する

② 違う演舞組に変わる

【友だちとの誤解を解くために・・・メンバーを呼んで、話し合いの場をもった】

① 投げやりになって友だちに嫌な思いをさせたことを謝る。

⇒なぜ投げやりになったのかの説明を自分の言葉でできた！！

『ダンスを踊りたいけどみんなのようによく踊れない。けど、みんなと同じ振りで踊りたい。』

② 『練習をしなければならないことはわかっているが、昼休みだけは譲れないので、登校してからの時間と放課後の時間に教えてほしい』とメンバーのみんなにお願いした。

そうしたら・・・

他の友だちからも「僕もこの振りが不安」「練習したい」という声上がり、「一緒に練習しよう」と友だちも理解を示してくれ、最後の文化祭にむけて練習に取り組むことができた。

丁寧な関わり、信頼関係のもと言語化ができるようになった
自分で選択・決定することで、折り合いをつけられた

当日も練習の成果を発揮して、参加することができました

